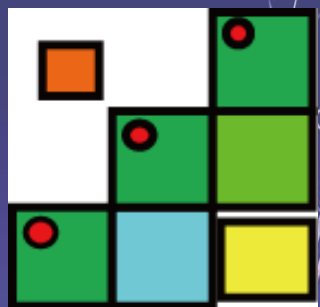




国臨協新潟地区会会報

朱鷺っど

2018年9月発行
第84号

発行者:菅 孝(西新潟中央)
編集委員:平原 博美(さいがた)
菅田 恵梨(さいがた)
加藤 梨紗(新潟)



長岡花火 撮影 新潟病院 加藤



会長挨拶



平成29年度 新潟地区会総会・研修会に向けて
国臨協関信支部 新潟地区会会長
NHO西新潟中央病院 臨床検査技師長

菅 孝

澄んだ青空の下、越後平野では稲刈りの季節となりました。新潟地区会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より新潟地区会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度も地区会では施設相互の交流と会員の親睦を図ることを主な目的として、活動を行って参りました。一昨年より取り組みましたエコノミークラス症候群予防検診での下肢静脈エコー検査への人材育成も2年目となり、新潟病院(柏崎)、今後行われます小千谷、十日町へも会員の皆さんより協力頂け、感謝申し上げます。来月開催されます総合医学会へも会を代表して西新潟中央の土田技師より取り組み内容を報告頂きます。西日本の豪雨災害、巨大台風によるライフラインの寸断、北海道胆振東部地震など今尚多くの被災者がご苦労されている事と思います。災害への備えの一環としても本事業の継続性を感じます。

本年事業の地区交流会では、4月より新しく会員になられた4名を加え、小国和紙工場で紙漉きを通して、古くから伝わる技を体験させていただきました。作成した和紙は地区会ポスターの台紙になり、支部学会で展示して頂きました。(残念ですが一等賞はダメでした)

10月6日に行われます地区研修会では、医療法等の一部を改正する法律(法改正)での必要事項への理解を深めるため、前施設でISO15189の受審と運用をご経験された新潟病院の岡村技師長より、ISOの総論と実際の運用面でのお話を頂く予定としております。その後は各施設での進捗状況や問題点をグループディスカッションしてもらい、地区会として各施設が安心して法改正を迎えられるよう準備したいと思っております。

又、年3回発行の『朱鷺っと』は支部HPにもアップされ、地区会報として発行回数では関信中で一番と思っております。『朱鷺っと』に名称変更したのが2011年1月 第61号からです。内容は多くの写真と会員紹介や情報交換・提供、親睦を深めるためにも大切なアイテムとなっております。

総会終了後は恒例であります情報交換と親睦を兼ねて、新潟の繁華街で、旬の肴や地酒でオモテナシしたいと思います。関東信越グループ医療担当の北沢臨床検査専門職と関信支部からも出席頂く予定としております、どうぞ多くの会員の方々の出席もお願いいたします。

最後に、今年度は地区会会長の技師長会会長との併任で、より円滑に両会で協力した体制を目指しましたが、初めてのことであり何かとご迷惑をお掛けした面もありました。来年度も国臨協本部・支部、技師長会ともご指導いただきながら、会員の皆様のお役に立てるよう努力いたしますとともに、会員皆様のご協力とご支援を宜しくお願い申し上げます。

国臨協新潟地区会 定期総会・研修会

日 時：平成 30 年 10 月 6 日(土) 12:30～受付開始

場 所：国立病院機構西新潟中央病院

研修棟 2 階 研 修 室

会 長：菅 孝（西新潟中央病院）

日 程

1. 受付 12:30～（研修棟 2 F 研修室 入口にて）

2. 研修会 13:00～15:15

講演Ⅰ 『 法改正後の検査室の運用について
—ISOに準じた運用—（仮） 』

新潟病院 臨床検査技師長 岡村 治 先生
（休憩 14:10～14:15）

講演Ⅱ 『 伝達事項ならびに会員の皆様に向けて 』

関東信越グループ医療担当 臨床検査専門職
北沢 敏男 先生

3. 定期総会 15:20～16:10

4. 懇親会 17:00～19:00（送迎バス 病院前16:30発）



懇親会

会 場 海鮮屋『葱ぼうず』

新潟市中央区笹口1-10-1

025-240-6363

参加費 会員 ￥ 5, 000円
非会員 ￥ 5, 500円



第46回国臨協関信支部学会演題発表(スライド)

中越沖地震エコノミークラス症候群予防検診が行われてから10年以上経過し、今回はその膨大なデータの中の一部について発表させて頂きました。久しぶりの学会発表で緊張しましたが、皆さまのおかげで無事に終わりほっとしております。



新潟病院 玉井 真紀

検診エコー検査での 下肢静脈血栓陽性者のその後



国立病院機構新潟病院 臨床検査科 新潟大学大学院呼吸循環外科¹⁾
新潟大学先進血管病・血栓症治療・予防講座²⁾

○玉井真紀 菅井めぐ美 中村綾子 品田恭子 加藤梨紗 南雲伸夫
柳田光利 舘野直道 岡村治 岡本竹司¹⁾ 横沢和彦²⁾

はじめに

- ・2004年 中越大地震
震災後のエコノミークラス症候群が注目された。
- ・2007年 新潟県中越沖地震
2017年までの10年間に計11回の検診実施。
現在までの検診において全体の下肢静脈血栓
の陽性率の低下はみられなかったため、今回
血栓陽性者の経過を追跡したので報告する。

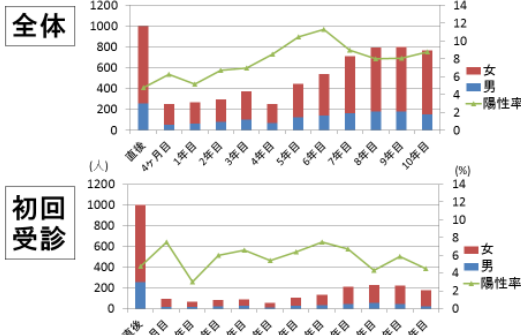
対象と方法

期 間 : 2007年7月~2017年7月(10年間)
対 象 : 中越沖地震被災地住民2393名
血 栓 陽 性 : 251名(血栓陽性率10.5%)
延べ検査人数 : 6450名

対 象 1) : 地震直後から3回以上受診した症例
血栓陽性者72名を抽出
血栓の経時的推移を調査

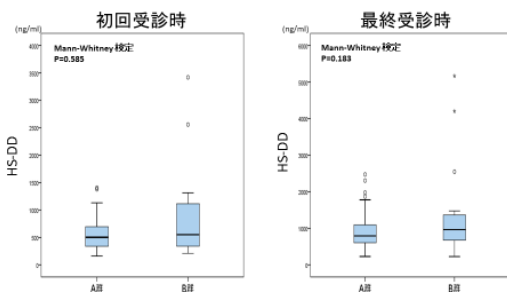
対 象 2) : 10年間継続して受診した9名
下肢静脈エコー検査
高感度Dダイマー値(測定機器VIDAS30)
アンケート調査の生活習慣
当院受診結果について検討

血栓陽性率の推移

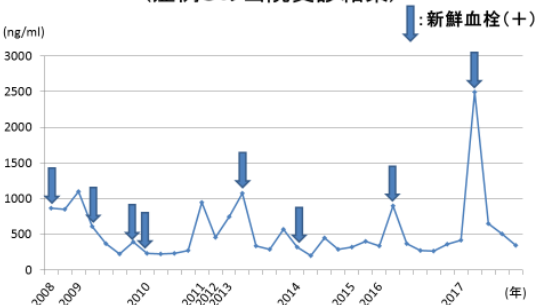


Dダイマー値の比較検討結果

- ・ 下肢静脈血栓陽性者72名のDダイマー値について初回受診時と最終受診時を比較検討した結果、有意差は認められなかった。



Dダイマー値の推移 (症例8の当院受診結果)



受診者の比較

	血栓陽性	血栓陰性	t検定
人数	251人	2142人	
年齢	74.45才	67.63才	p<0.01
D-dimer	837.84	538.18	p<0.01
性別			p<0.01
男	44人(7.7%)	526人(24.3%)	
女	207人(82.3%)	1616人(75.7%)	
車中泊	あり 69人(10.5%) なし 152人(58.5%)	586人(27.3%) 108人(5.0%)	p=0.26
地震後体調不良	あり 48人(17.6%) なし 157人(61.8%)	224人(10.4%) 1292人(60.2%)	p=0.01
眠剤の服用	あり 77人(30.7%) なし 138人(54.5%)	581人(27.1%) 1067人(49.7%)	p=0.87
下肢のむくみ	あり 92人(36.7%) なし 119人(46.6%)	527人(24.6%) 1002人(46.8%)	p=0.09
タバコ	あり 6人(2.4%) なし 199人(78.2%)	136人(6.3%) 988人(45.8%)	p<0.01
心臓病	あり 52人(20.7%) なし 164人(64.5%)	378人(17.6%) 1238人(57.4%)	p=0.82
ワーファリン服用	あり 39人(15.5%) なし 172人(67.7%)	158人(7.3%) 1355人(62.7%)	p=0.01
アスピリン服用	あり 16人(6.4%) なし 172人(67.7%)	91人(4.2%) 1355人(62.7%)	p=0.32

赤:有意差あり
黒:有意差なし

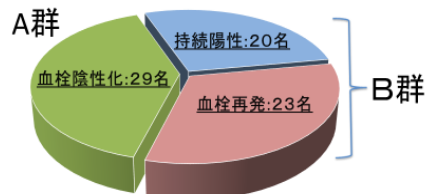
10年間継続受診した9名の背景

性別	女性9名(男性0名)
平均年齢(初回受診)	66歳
車中泊者	5名
静脈瘤あり	6名
眠剤服用	7名
症状	浮腫 7名 動悸 8名
既往歴	高血圧 6名 高脂血症 8名 糖尿病 6名
内服薬	ワーファリン 6名

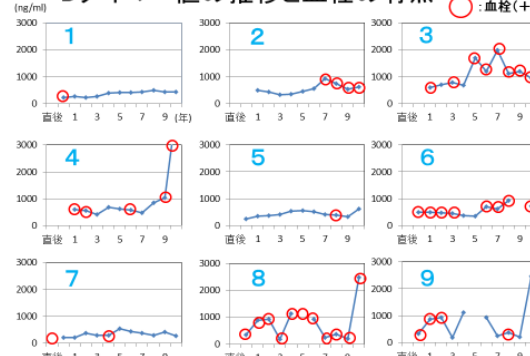
考察・まとめ

- ・ 血栓陽性者の経過で血栓が持続した症例、消失した症例、再発した症例と様々な経過をたどっていることが判明した。
- ・ Dダイマー値と下肢静脈血栓陽性者との関連性を検討したが、明らかな有意差は確認出来なかった。
- ・ 検診によるエコー検査を受ける症例には様々な背景因子が関与するため、詳細な分析が必要と思われる。また、Dダイマー値は下肢静脈エコーの結果と時間的な乖離を生じる症例もみられるので注意を要すると考えられる。

血栓陽性者の内訳 (72名、複数年受診)



Dダイマー値の推移と血栓の有無



第46回国臨協関信支部学会
地区会ポスター



和紙を使ったのは好評だったようですが、残念ながら入賞
できませんでした。皆様ご協力ありがとうございました。

私の趣味

西新潟中央病院臨床検査科 保田 剛史

私の趣味は2つあります。2つとも体を動かすことなのですが、1つ目は水泳です。自分自身なにか体を動かす趣味が欲しいと考えていたので、2年前の西新潟中央病院の異動に伴い思い切ってスイミングクラブに入会しました。このスイミングクラブは私が小学生の頃に習っていたスイミングクラブなのですが、当時のコーチがまだ現役で私の事を憶えていた事には驚きました。今は自分のペースで泳いでいるのがほとんどですが、時々アクアビクスやバタフライ教室などスイミングクラブ内のレッスンにも積極的に参加しています。最初は体力の無さからレッスンを途中で抜けて、プールサイドで横になって笑われていましたが、今はやっと付いていけています。また、レッスンを通してスイミングクラブ内で友達もでき、レッスン後に皆さんとお風呂やサウナに入って喋る事もとても楽しい時間になっています。これからも水泳を続けて、来年はマスターズ大会に出場しようと思っています。

2つ目の趣味はロードバイクです。ロードバイクは今年の8月から始めました。ロードバイクを始めたきっかけは「水泳もいいけど、景色が変わるスポーツがしたい！！」と思ったのと、NHKの「こころ旅」というテレビ番組が好きだからです。実際ロードバイクを購入してわかったのですが、お金がかかります…まだ最低限のものしか準備していないのですが、これから服を買って、靴を買ってといろいろ考えてネットを見ているとゾッとします。でも自分がやりたくて始めたわけですから、とことんやろうと思います。まだ始めたばかりでスピードも遅いし、長時間乗っていることは出来ませんが、風を感じて走るのはとても気持ちいいです。これから冬になると天気も悪くなるので、晴れた日はロードバイクで通勤しようと思っています。



第72回国立病院 総合医学会抄録



エコノミークラス症候群予防検診に向けた 人材育成の取り組み

西新潟中央病院 土田 昌美

<はじめに>

新潟県は2004年10月23日に発生した中越地震、2007年7月16日の中越沖地震により被災した。中越地震直後から被災地において下肢静脈エコー検査が開始され、1年後に「エコノミークラス症候群予防検診支援会」が発足、被災住民のフォローアップ検診を13年余り実施してきた。

下肢静脈エコー検査をはじめ採血、血液検査等で県内外の多くの臨床検査技師が検診に携わってきたが、ボランティア参加であり特にエコー検査が施行可能な技師を集めることが困難な状況にある。

そこで、国立病院臨床検査技師協会新潟地区会（以下、当会）は、被災地でのさらなる検診への協力と何時発生するか予想がつかない災害に備え、より多くの技師が下肢静脈エコー検査で血栓を検索できることを目的に人材育成の取り組みを行ったので報告する。

<取り組み内容>

当会と国立病院臨床検査技師長協議会新潟地区会が協議し、県内3施設で各1名の担当者を選出、下肢静脈エコー検査マニュアルの作成および各施設での実技講習会を実施し、2017年12月の小千谷市での検診へ参加して下肢静脈エコー検査を施行することを目標とした。

<結果とまとめ>

統一的なマニュアルを作成して実技講習会を実施したことにより、新たに数名の技師がエコノミークラス症候群予防検診へ参加し下肢静脈エコー検査を施行することができた。今回はエコー経験者の指導の下、共に検査を行ったが、今後も施設間の情報交換や定期的に実技講習会を実施することで知識・技術を向上させ、一人でも多くの臨床検査技師が将来起こりうる災害に向けて活動できるように人材育成への取り組みを継続していく必要があると考える。

第72回国立病院 総合医学会抄録



免疫関連有害事象(irAE)の取り組みと今後の対応

国立病院機構西新潟中央病院 臨床検査科

古江裕志 山崎茂樹 高橋美保 藤田薫 土屋邦子 高橋直也
中野里美 保田剛史 霜田由美子 土田昌美 森田千穂 加藤輝
山本直樹 菅 孝 増田浩

【はじめに】

免疫チェックポイント阻害薬immune checkpoint inhibitor (ICI)は、多くの腫瘍に対する治療に広く使用されるようになってきている。特に非小細胞肺癌治療においては化学療法、分子標的療法、放射線療法に加え、標準治療として行われている。しかし、その作用機序から自己免疫疾患類似の副作用報告もされている。当院でも非小細胞肺癌治療にICIが用いられており、臨床検査データから副作用について調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

当院でPD-L1 22C3免疫染色を施行した63症例のうち、陽性となった21症例中、ICI治療が行われている9症例を対象とし、臨床検査項目と検査データについて検討を行った。

【結果】

臨床検査として、一般的な生化学検査、血糖値、甲状腺機能検査、腫瘍マーカー、間質性肺炎マーカー、尿検査などが行われていたが、治療前と治療開始からの項目について統一されていない症例が見られた。また、検査データとしては治療前と比較して臨床的に意義のあるデータの変動は見られなかった。

【考察】

ICI治療においては化学療法でみられる様な有害事象は少ないとされている。今回の検討でも検査データからは重篤な有害事象を疑わせる症例はみられず、副作用管理が適正に行われていることが推察された。しかし、検査項目にバラツキがみられ、ICI治療の臨床検査については一定の管理がされていないことが示唆された。がん専門施設などでは臨床検査技師を含む多職種チーム医療も行われている。当検査室も臨床の一翼を担えるような体制づくりをする必要性があると考えられた。

A squirrel with brown and black stripes is sitting on a bed of dry leaves, holding a nut in its paws and eating it. The background is a dense forest with trees having vibrant autumn foliage in shades of orange, yellow, and red.

今後の活動計画

- ・10月6日 第38回 新潟地区会定期総会・研修会
- ・2019年1月 第85号 朱鷺つと発行予定

編集後記

急な寒さに体が追い付かない毎日です。
今回も無事会報を作り終えることができホッとしています。何度作成してもなれないものです・・・

期日の短い中、原稿作成に協力してくださった皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

R.K.